

Science and Technology

Environment and Disaster Prevention in Tokushima

(工(建))

Yoichi Kawaguchi · ASSOCIATE PROFESSOR / INSTITUTE OF TECHNOLOGY AND SCIENCE

2 units 前期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『学部開放科目』)

Target) 私たちが暮らしていく地域の「自然環境」と「防災」関心や興味をもって暮らしていけるよう、それらについての視点・考えかたについて解説する

Outline) 私たちが安心して暮らしていくために必要な「自然環境」と「防災」について、徳島に関連深い事項を例にとりあげながら、1) 身近な自然環境の様子、2) どのようにして身近な自然環境を守ったり、修復したりしようとしているのか、3) 地震や津波への備え、4) 自然環境を保全しつつ災害にも強いまちづくりのあり方、の 4 つの観点から解説する。

Keyword) Tokushima, 自然環境, 防災, 地域力

Goal) 自らが暮らす地域の自然環境の保全や防災がどのように進められようとしているのかを知り、その地域の中で暮らしていく者として、地域の自然環境の保全と防災に興味と自覚を持って暮らし続けられる。

Schedule)

1. ガイダンス-足元からの安全と安心
2. 水環境の再生・修復
3. 自然再生と地域再生 / レポート
4. 「なぜ、環境を守らないといけないの?」
5. 「放っておいてくれ!」という人にも防災は必要?
6. ”50 歳のあなた”を考えた環境と防災
7. 「地域力」-ソーシャルキャピタルの視点から 1
8. 「地域力」-ソーシャルキャピタルの視点から 2
9. 「地域力」-ソーシャルキャピタルの視点から 3 / レポート
10. 地震と地震動
11. 地震による被害
12. 地震被害の予測と対策 / レポート
13. 森林の洪水低減機能の仕組みと限界
14. 森林の水質保全機能, 森-川-海の繋がり
15. 自然の力を活用した徳島県の省エネの取り組み/レポート

Evaluation Criteria) 到達目標の達成度は期間中に課せられる 5 回のレポートの総点 (各レポートは 20% ずつの重み) により評価し、評点が 60% 以上を当目標のクリア条件とする。

Message) 本科目は本学科の教育目標の 1(1) に 40%, 1(2) に 40%, 1(3) に 20% 対応する。

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221038>

Contact (Office-Hour, Room, E-mail)

⇒ Kawaguchi (308, +81-88-656-9025, kawaguchi@ce.tokushima-u.ac.jp) MAIL
(Office Hour: 金曜午後)